

# 茨城県市町村が実施する洪水からの避難訓練について

市町村名	境町
訓練名称	令和5年度 境町総合防災訓練
訓練実施日時	令和5年10月14日（土）8時00分 ～ 12時00分
訓練実施場所	茨城県立八千代高校（指定広域避難所）、安達運輸駐車場（指定広域緊急避難場所）、さかいR&Dセンター（予備災害対策本部）、文化村（バスターミナル）
実施した訓練の概要	<p><b>1 全般</b> 利根川氾濫を想定し、全町民を対象とした避難情報の伝達訓練に引き続き、住民による車での町外広域避難訓練を実施した。 この際、住民の主体性を助長するため、区長会会長以下役員を実行本部として組織するとともに、要配慮者に対するバス避難支援を併せ実施した。</p> <p><b>2 想定</b> 巨大台風の接近に伴い、利根川中流4県境広域避難協議会では利根川氾濫の広域避難に関する共同検討を開始し、その後、氾濫の危険性が高まったことから、浸水外にある予備の災害対策本部（さかいR&amp;Dセンター）において、第1回災害対策本部会議を開催し、本部長は広域避難を決心</p> <p><b>3 訓練実施項目及び内容</b></p> <p>(1) <b>避難情報伝達訓練（主対象：自主防災組織）</b> 災害対策本部から避難情報を2回（高齢者等避難、避難指示）発令し、防災行政無線、防災アプリ、消防団による巡回広報、全区長への電話連絡により各自主防災組織（行政区）の非常連絡網による情報伝達訓練を実施</p> <p>(2) <b>広域避難訓練（主対象：一般住民・要配慮者、避難所・輸送支援指定職員）</b> 避難情報に基づき、各自のタイミングで避難を実施し、併せて各自主防災組織の要請に基づき、要配慮者等をバスにより輸送支援</p> <p>(3) <b>展示・体験訓練（主対象：一般住民・要配慮者）</b> 避難訓練と並行して関係機関の装備品・パネル、避難所備蓄品等の展示・体験訓練を実施し、自衛隊、女性消防団等との合同炊事により昼食を提供</p> <p><b>4 訓練の狙い</b></p> <p>(1) 災害対策本部 : 各対策部の広域避難における支援要領（総務支援班、高校避難所チーム、バス輸送支援班等）の検証</p> <p>(2) 自主防災組織 : 情報伝達要領の確立・行政区内要配慮者等の存在の認識</p> <p>(3) 一般住民等 : 自らの避難のタイミング（マイタイムライン）の確立 避難所の実態把握及び避難時の備えの必要性の認識</p> <p><b>5 重視事項</b></p> <p>(1) 計画の実効性の検証と問題点・処置事項の把握 → マニュアル等への反映</p> <p>(2) 避難実績のない避難所における広域避難諸元・時間的尺度の把握</p> <p>① 各自主防災組織内（行政区内）の情報伝達完了までの所要時間</p> <p>② 避難車両の収容能力の把握と誘導・配列要領の確立</p> <p>③ 住民の避難のタイミングの傾向の把握、特に集中時期</p> <p>④ バス輸送要支援者の把握と支援要領の確立</p>
参加者数	825人（一般住民：513人／避難車244台、要配慮者バス避難：99人／マイカー6台、職員：86人、関係機関・団体等：115人、その他：12人）



バスターミナル（文化村駐車場）の設定



支援班による要配慮者の出迎え



広域避難所（学校）へのバス輸送支援



避難施設（体育館）到着



要配慮者の下車支援



駐車場の設定



警官による誘導



緊急避難場所：基準車に基づく配列（244台）



緊急避難場所から徒歩移動



広域避難所（学校）へ移動



広域避難所に到着



一般避難者の受付（体育館入口）



最高齢の避難者（95歳：バス避難）



避難所内施設（災害用テント・段ボールベット等）の展示・体験



避難訓練終了式



避難終了報告



本部長（町長）挨拶



訓練講評  
（片田特任教授）

写真  
（避難訓練）